

【今日の説教から】

今日はペンテコステ(聖霊降臨日)です。これは主の復活の日から50日目の日です。イエス様は「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」と語られましたが、果たしてこの日、聖霊により、弟子たちは世界中の人々の生まれ故郷の言葉で神の大きな働きを述べ、これを機に世界宣教が始まります。今からおよそ2000年前のこの日は教会の誕生日と呼ばれます。

「火のような、分かれた舌」が現れて弟子たちのうちに座を定めた時、弟子たちは聖霊に満たされ、「聖霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出し」ました。

「舌」という言葉は、言語という意味をも持ります。聖霊は、まず彼らに新しい舌(言語)を与える働きをしました。そのことにより、弟子たちは習いもしない外国の言葉で語り始め、五旬祭(7週の祭り・刈り入れの祭り)のためにエルサレムに集まってきた人たちをも含め、多くの人たちの驚きとなりました。「これは、いったい、どういうわけなのだろう」、どんな方法で、どのようにして、このようなことが可能になるのだろうかというようなことが起こりました。神の聖霊がそれを可能にしました。神の聖霊が「神の大きな働きを述べ」させました。使徒行伝は「聖霊行伝」とも呼ばれます。神の大きな働きが弟子たちを動かすのです。

皆様おはようございます。

主の復活の日から50日目、今日はペンテコステの日です。

使徒1章にて、イエス様はこのように語られました。

1:4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを受けられるであろう」。

1:6 さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。

1:7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

そして今日、五旬祭・七週の祭り・刈り入れの祭りのこの日にその出来事は起こったのです。

2:1 五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、

2:2 突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぽいに響きわたった。

2:3 また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりひとりの上にとどまった。

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

炎が、その勢いによってめらめらと、分かれてはためき燃えるように、舌のようなものが分かれて現れ、座っていた弟子たちひとりひとりのところに座った、とどまった、座を設けたと書いてあります。

私たちが座布団の上に、椅子の上に座るかのごとくに、聖霊が私たちのところに座してくださるとは、何という光栄でしょうか。きよい霊がとどまるにはきよい座でなければなりません。キリストの血潮が私たちの罪を清算し、私たちを清めてくださったのです。

そして一同は聖霊に満たされました。そして、「御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した」のです。

「舌」という言葉は、「言語」をも意味します。

理解できない外国語を話す人たちは、一風異なった舌を持っていて、その故に違う言語を話すと解されたのでしょうか。

ここでは聖霊の働きが、外国の言葉を話すことであったという事に着目しましょう。つまり、このことは、使徒1章にて語られていたことの成就でした。

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

そして、地の果てにまで出でていくときに必要になることが、現地の言葉で語るという事であり、そういう必要を神様が、聖霊により満たしているから、さあ恐れずに出ていきなさいというシグナルなのではないでしょうか。

2:5 さて、エルサレムには、天下のあらゆる国々から、信仰深いユダヤ人たちがきて住んでいたが、

2:6 この物音に大ぜいの人が集まってきて、彼らの生れ故郷の国語で、使徒たちが話しているのを、だれもかれも聞いてあっけに取られた。

2:7 そして驚き怪しんで言った、「見よ、いま話しているこの人たちは、皆ガリラヤ人ではないか。

2:8 それなのに、わたしたちがそれぞれ、生れ故郷の国語を彼らから聞かされるとは、いったい、どうしたことか。

2:9 わたしたちの中には、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人もおれば、メソポタミヤ、ユダヤ、カバドキヤ、ポンとアジヤ、

2:10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者もいるし、またローマ人で旅にきている者、

2:11 ユダヤ人と改宗者、クレテ人とアラビヤ人もいるのだが、あの人々がわたしたちの国語で、神の大きな働きを述べるのを聞くとは、どうしたことか」。

2:12 みんなの者は驚き惑って、互に言い合った、「これは、いったい、どういうわけなのだろう」。

2:12 みんなの者は驚き惑って、互に言い合った、「これは、いったい、どういうわけなのだろう」。

人々は、この様を見て、「いったいどうしたことか」「どうしたことか」と、あっけにとられ、驚き惑っていました。

8節の「いったい、どうしたことか」という言葉は、どうやって、どのような方法で、どのようにしてそれが可能になるのかという疑問を表す言葉です。

人には理解することも説明することも出来ないでしょう。人にはできないことも、神にはできるのです。

ルカ 18:27 イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

ルカ 1:37 神には、なんでもできないことはありません

神の大きな働きです。神の大きな働きを述べる。聖霊によって力を受けて語るのです。

「行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教え」るのです。(マタイ2章)

神様は偉大な力によって、神様の大きいなる働きをなさり、その御業を私たちに証しさせてくださいます。

私たちも聖霊の備えをいただき、力づけをいただき、出発しようではありませんか。

以下に、私が宣教の志を燃やされる一冊の本から引用させていただきます。

『地の果てにまで 海外宣教のチャレンジ』 オズワルド・J・スミス著 松代幸太郎訳
いのちのことば社 1970 より

異教徒の宗教は、

彼らにとって十分なものではない

旅行者たちは、本国に帰って来て、異教徒たちは彼らなりに楽しくやっている、彼らの宗教は彼らにとって十分によいものだ、と言います。旅行者たちは言うのです、異教徒たちは彼らの宗教で幸福にやっているのだから、わざわざ宣教師を彼らのところへ派遣するのはまちがっていると。

さて、聖書には「地の暗い所には暴虐が横行しています」（詩篇 74 篇 20 節）とするされています。そして、その通りなのです。問題は、旅行者がそのことを発見するほど長く滞在しないという点にあります。異教の特色は、それが残忍な宗教であるということです。恐怖が彼らの心をとらえています。彼らは、絶えず、悪霊－なんらかの方法でなだめなければならぬ靈－を、恐れているのです。

アフリカ

私は今、アフリカを訪れた時聞いた話のことを思い出しています。それは真夜中のことでした。突然、村の中で断末魔の叫びが聞こえました。ひとりの赤ん坊が死んだのです。ただちにウィッチ・ドクター（訳注アフリカ原住民の中にいる祈祷医師）が呼ばされました。村人たちは起きました。まもなくウィッチ・ドクターは、ひとりの婦人を指さして、彼女がその赤ん坊を死なせたのだと言いました。彼女はすぐに異議を申し立てて、無実だと主張しました。しかし、彼女はためされなければならなかったのです。人々は彼女を、村の中央に立っている木のところへ追い立てました。彼女はその木にのぼり、一番上の枝から飛び降りよと言われたのです。彼女はのぼりはじめました。やがて彼女は一つの枝の上にすわり、再び無実を訴えました。すべての人は、彼女が真実を語っていることを知っていました。彼女は村中で最もりっぱな婦人のひとりで、すべての人からこの上なく尊敬されていたのです。しかし、ウィッチ・ドクターは、彼女を指さして罪ありと言います。だから彼女は、その無実を証明しなければならないのです。

やがて彼女はまたのぼりはじめました。そしてとうとう一番高い大枝のところまで登りました。彼女はそこにすわり、さらに無実を主張しました。それから宣教師の恐怖のまなざしの前で、彼女は下のかたい地面に向かって身を投げました。そして即死したのです。彼女の骨は大部分折れていきました。彼女はこうして罪ありと断定されました。彼女がもし無実であったならば、彼女はけがをしなかっただろうというのです。

親愛なる友よ、このようなことが数限りなく起こっているのです。なぜでしょうか。彼らの宗教のためです。異教の宗教がそれを要求するのです。だからのがれることはできません。あなたはこの婦人のようになりたいですか。あなたがとの婦人の宗教を受け入れ、あなたのキリスト教の信仰を放棄する準備ができるまでは、「彼らには彼らの宗教で十分だ」とは言わないようにして下さい。もし彼らの宗教があなたにとって十分でないなら、それは彼らにとっても十分ではないのです。

オーストラリア

私はかつてオーストラリアの原住人を訪れた時のことを考えています。オーストラリア大陸の中央には、広大な砂漠があり、気候は非常に暑いのです。そこに原住民が住んでいます。ほとんど裸体で、しばしば砂の上で眠っています。ひとりの母親が赤ん坊を出産しました。また村人のうちのひとりが死にました。その葬りのための犠牲者を搜さなければなりません。

そしてまもなく、ウィッチ・ドクターは、新しく生まれた赤ん坊のほうへ進んで行きました。母親は気違いのように赤ん坊を胸にだきしめました。しかし、ウィッチ・ドクターは、一瞬のためらいもなく、泣き叫ぶ母親の手から赤ん坊を奪い取り、赤ん坊を砂の上にあおむけに寝かせ、その小さな口を無理にあけ、赤ん坊が窒息して死んでしまうまでその口に砂をつめこみました。

なぜこんなことをするのでしょうか。彼らの宗教がそれを要求するからです。だれかを犠牲に供して、悪霊をなだめなければならないのです。

あなたは、この母親のようになりたいとお思いになりますか。もし彼女の宗教が彼女にとってよいものであるならば、それはあなたにとってよいものです。しかし、あなたが喜んでこの母親のようになり、あなたの生まれたばかりの赤ん坊を犠牲にするのでなければ、あなたには「彼らの宗教が彼らにとって十分だ」と言う権利はないのです。このような恐ろしい習慣が行なわれているのは、彼らの宗教のためです。

あなたは、この原住人の母親があなたと同じように苦しむと思いませんか。もちろん、彼女は苦しむのです。あなたが赤ん坊がかわいいように、彼女も赤ん坊がかわいいのです。しかし、ウィッチ・ドクターは血も涙もありません。悪霊がなだめられなければならないのです。彼女の宗教は、彼女にとって十分でしょうか。それならあなたにとっても十分なはずです。

南洋諸島(ミクロネシア)

私はまた、南洋諸島をおとずれた時のことを考えています。ジョン・ゲデスは、カナダから最初に南洋諸島をおとずれた宣教師のひとりでした。それはかなり以前のことでした。彼が上陸した時、彼は一群の人々が集まっているのを見ました。地上にはひとりの男の死体が横たわっているのです。かたわらの木の下には、若い婦人がいるのが見えました。彼女はこの死んだ男の妻なのです。

突然、原住民たちは彼女のほうへ近づいて行きました。彼女は抵抗しませんでした。彼女は、どんなことが起こるかをよく承知していたのです。彼らは彼女の首のまわりに太いひもを巻きました。そして彼女の首を絞めはじめたのです。ジョン・ゲデスは彼女のほうへ走って行き、彼女を助けようとした。しかし、彼は荒々しく突きのけられ、余計なことをするとおまえも命がないぞと言われました。このようにして、彼は、目の前で、美しい若い婦人が徐々に絞め殺されるぞっとするような光景を見たのです。彼女の死体は、夫の死体に並べて横たえられました。

なぜでしょうか。彼らの宗教が、夫が死ぬ時残された妻も夫の道づれとして絞め殺されなければならぬと要求しているからです。そしてもし長男が成人しておれば、その長男が、母親を絞め殺さなければならぬのです。そればかりではなく、もし子どもたちがまだ小さくて自活してゆけない場合には、子どもたちもみな同様に殺されなければならないのです。これが彼らの宗教です。異教の宗教なのです。

親愛なる友よ、あなたは喜んでこのやもめの身代わりとなりますか。あなたは夫が死んだ時、このような経験を楽しんで待つことができますか。もし彼らの宗教が彼らにとってよいものであるならば、彼らの宗教は、あなたにとってよいものであるはずです。そしてもし彼らの宗教があなたにとってよいものでないならば、彼らの宗教は、彼らにとって十分だなどと言わないで下さい。

インド

私はインドをおとずれた時のことを、けっして忘れることができません。私は川のそばを歩いている時、よくインドをおとずれた日のことを思い出すのです。そこでは夫の死体が積みかさねただきざの上に横たえられ、まだ生きている残された妻がその横に置かれ、二つのからだ——一つは死んでおり、一つは生きている——が縄でしばり合わされて、火で焼かれたのです。若いやもめは、断末魔の叫び声をあげながら、徐々に焼き殺されてゆきました。周囲に集まっていた原住民たちは、これによって悪霊がしづめられ、夫はあの世で妻とともに暮らすだろうと信じていたのです。

あなたは、喜んでこのやもめの身代わりになりますか。数えきれないほど多くのやもめが、夫が死んだ時、炎の中で死にました。それは彼らの宗教のためです。彼らの宗教は、彼らにとってよいものでしょうか。それなら、あなたにとってよいものであるはずです。親愛なる友よ、あなたが喜んでこのやもめの身代わりになり、あなたのキリスト教の仰を捨て、このやもめの異教の宗教をおじにならぬうちは、彼らの宗教は彼らにとってよいものだ、彼らはそれで幸福なんだなどと言わないようにして下さい。このような苦しみを受けているやもめが、果たして幸福でしょうか。もちろん、そんなはずはありません。「地の暗い所には暴虐が横行しています。」

イスラム教

異教徒の宗教は私はあるイスラム教徒の話を忘れることができません。彼は町の中央で群衆の前に立ち、大きな長いナイフで血がドクドク流れ出るまで彼の頭をめった切りにしました。それから新聞紙をとりあげてその開いた傷口の裂け目につめ込み、ゆっくりマッチをすって火をつけたのです。彼はそこにじっと立っていました。火は、ジュージューと音をたてて血を煮え立たせ、新聞紙と髪を焼きました。この男は、このような耐え難い責苦をじつとこらえていたのです。なぜ、とあなたはお尋ねになりますか。それは彼の宗教のためです。天国において自分の行く場所を獲得するために、彼は自分のからだを苦しめなければなら

ないのです。彼は苦しまなければならないのです。彼は苦痛を耐え忍ばなければならないのです。だから彼は、自分自身を苦しめているのです。あなたは、この男のようになりたいとお思いになりますか。彼の宗教は、あなたにとってよいものでしょうか。あなたは、このような苦しみに耐えることがおできになりますか。あなたは、彼が苦しんだように苦しもうとお思いになりますか。おお、親愛なる友よ、彼の宗教があなたにとってよいものでないならば、それが彼にとってよいものだなどと言わないで下さい。

インドシナ(東南アジア)

私といっしょにインドシナへ行きましょう。私たちは野蛮人の中にいるのです。かよわい少女があおむけに横たわっています。彼女の頭は、残忍な人非人のひざでしっかりと抑えつけられています。彼は粗末なこぎりで、ゆっくりと彼女の美しい前歯をはぐきから切り離そうとしているのです。おそろしい苦痛をこらえている少女のからだには、玉のような汗が流れています。歯の神経は見えており、口からは血がダラダラと出ています。このようにして筆舌に尽くし難い苦痛のうちに、やっとこの恐ろしい、野蛮な手術は終わり、彼女は解放されました。しかし、彼女は、死ぬまでこのみにくいはぐきで過ごすのです。あなたはこの少女のようになりたいと思いますか。あなたの小さな娘さんについてはどうですか。あなたは、あなたの姫さんに、このような苦痛を耐え忍ばせたいとお思いになりますか。しかし、数えきれない人々が、この苦痛を担っているのです。そしてそれはすべて異教の宗教のためです。小さな、あどけない子どもたちすらも、その運命をのがれることはできないのです。これが異教の宗教です。もしこのような※数が彼らにとってよいものであるならば、それは、あなたにとってもよいものであるはずです。

異教徒は現在のままではだめなのです。彼らは幸福ではありません。彼らは不幸なのです。彼らは最も不幸であり、みじめであり、苦しんでいます。彼らは絶えず悪霊を恐れており、なんとかしてそれをなだめようとしているのです。異教には安息も、平安も、喜びもありません。イエス・キリストのみが、喜びを与えることがおできになります。だから、永遠に遅くならないうちに、彼らに福音を伝えるため、できるだけのことをしようではありませんか。それは、あなたが、そして私が、キリストにあって知っている喜びを、彼らも経験するためです。これからはもう決して、「彼らは今まで幸福なんだ。彼らには彼らの宗教で十分なんだ」と言わないようにしようではありませんか。

私たちの宣教のモットー

「あなたは、自分で出かけるか、代わりの人を送るか、どちらかをしなければならない」
オズワルド・J・スミス

「この世代の人々には、この世代にのみ、到達することができる」「教会の使命は、宣教である」

「どこへでも、もしそれが前進であるならば」

デーヴィド・リビングストン

「遠く、さらに遠く、夜のやみの中へ」

「もし世界の宣教が神のみこころであるならば、そして、あなたが宣教事業をサポートすることを拒むならば、あなたは、神のみこころに反しているのである」

オズワルド・J・スミス

「神のために大いなることを試みよ、神から大いなることを期待せよ」

ウイリアム・ケアリ

「宣教しない教会は、生命のない化石のようになる」

「すべての人が福音を一度聞かないうちに、一部の人たちだけ二度聞くというようなことが、あってよいか」

オズワルド・J・スミス

「あなたは、死んだ時、金を持って行くことはできない。しかし、それをあらかじめ天に積んでおくことはできる」オズワルド・J・スミス

「教会は、宣教の義務を果たす時にのみ、その存在を正当化する」

「人は、百万以上 (upwards of a million) の金をのこしながら、それを少しも天に持って行くことなしに (without taking any of it upwards) 死ぬかもしれない」

ウイリアム・フェトナー

「最も遠くまで届く光は、一番近い所を最も強く照らす」

「もしイエス・キリストが、神であられ、私のために死んでくださったのであるならば、彼のために私が払うどのような犠牲も、私にとって大きすぎることはない」C・T・スタッド

「神が、あなたの献金の額にしたがって、あなたの収入を定められることがないように、あなたの収入にふさわしい額を献金しなさい」ピーター・マーシャル

「見通しは、神のお約束と同様に、明るい」ジャドソン

「今、私を、神のために、燃え尽きさせて下さい」ヘンリー・マーティン

「しかし、もっと多く、おお、私の神よ、あなたのための、もっと多くの骨折りを、もっと多くの苦悩を、もっと多くの苦痛を、与えて下さい」フランシス・ザビエル

「私たちは愛することなしに与えることはできる。しかし、与えることなしに愛することはできない」

「伝道的でなくなった教会は、すぐに福音的でなくなる」アレキサンダー・ダフ

「私の金をどれだけ神にささげるかでなく、神の金をどれだけ私のためにとておくかである」「教会の最高の仕事は、世界の宣教である」

「数えきれない（untold）人々が、今なお福音を伝えられていない（untold）」

「あなたは、この地上で、ただ一つのなすべきことを持っている。それはたましいを救うと
とである」

ジョン・ウェスレー

「同情は行動の代用にはならない」

「キリストのみがこの世を救うことがおできになる。しかし、キリストは、おひとりで、こ
の世を救うこととはおできにならない」

「病気にかかった教会に対する最上の治療法は、宣教という食事を与えることである」

「もし私たちの信仰の中に、それを全世界に伝えたいという意欲を私たちに起こさせるも
のがないならば、それは私たちだけの信仰にとどまる」

「私たちは『御国をきたらせたまえ』と祈りながら、決して『ここにわたしがおります。わ
たしをおつかわしください』とは言わないのではないだろうか」

「神はただひとりの御子を持っておられた。そして、その御子を宣教師とされた」

デーヴィド・リビングストン

「神のことばである聖書に接したことがなく、イエス・キリストを知らない人々が数えきれ
ないほどいる限り、私は、これらを二つとも持っている人々のために、私の時間と精力を用
いることはできない」

J・L・ユーエン

「全教会の第一の仕事は、全世界に福音を伝えることである」「かくも多くの人々が一度も
福音を聞いたことがないのに、なぜ、かくも少ない人々が幾度も幾度もそれを聞くべきなの
か」

オズワルド・J・スミス

「私は、私の身にどのようなことがふりかかろうとも、福音のメッセージを宣べ伝える」
ツインツェンドルフ

「今、私は死のうとしている。私は、どんなことがあっても、私の生を、他の方法で過です
ようなことはしなかったであろう」

デーヴィド・ブレイナード

「私は、たましいをキリストに獲得するととさえできれば、どこで、どのようにして生活し
ようと、あるいは、どのような苦難を経験しようと、全く意に介しない」

デーヴィド・ブレイナード

「神と正しい決済をせよ。そうすれば、神もあなたと正しい決済をして下さる」

オズワルド・J・スミス

「あなたは、与えることにおいて、神を打ち負かすことはできない」

オズワルド・J・スミス

「神はだれの債務者にもなられることはない」

オズワルド・J・スミス

「私はビジョンを見た

私は自分自身のために、生きることができない。

私のすべてをささげるまでは

人生は全く価値のないものである」

オズワルド・J・スミス

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「いったい、これ

はどういうことなのか」という、人には理解できない、とまどい、あっ

けにとられ、驚き怪しむしかない出来事を、神様はなさることがお出来

になります。神の偉大な業のゆえに御名をあがめます。この世界は神様

の偉大な業に満ちています。どうか聖霊様が私たちに力をお授けくださ

り、偉大な力によって、私たちが神様の偉大な御業を証しできるよう

にお導きください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安

の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。

私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン